

できることから始めよう ～今すぐできる「7つの備え」～

●自助、共助

災害被害を少なくするためには、自分の身は自分で守る「自助」と地域や身近な人同士で助け合う「共助」が大きな役割を果たします。普段から「自分でできること」、「家族でできること」、「近所の人と力を合わせてできること」などについて考えておくことが大切です。

●地域とのつながり

大規模災害時の救助や避難には、日頃の近所付き合いが力を発揮します。また、お年寄りや障害のある方など、災害に弱い方々への心配りも大切。地域の防災訓練に参加し、安否確認や救出・救護、炊き出し、避難所生活などを体験してみましょう。

●地域の危険と避難所を知る

家族や近所の人たちで、地域の危険な場所や避難所を再確認する「ぼうさいまち歩き」をしてみましょう。

●地震に強い家

昭和 56 年に住宅の耐震基準が大きく変わりました。自分の家がそれ以前に建てられている場合、必ず耐震診断を受け、必要に応じて補強しましょう。それ以降に建てられていても、危険がないわけではありません。役場の建設整備課に相談してください。

●家具の固定

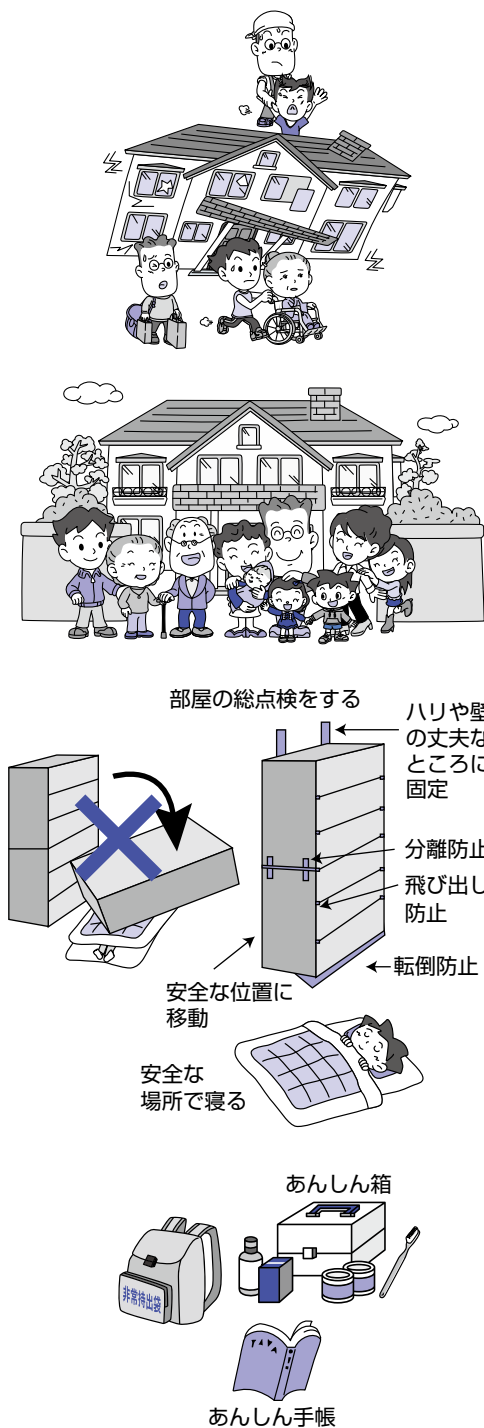
大きな家具や電気製品の下敷きにならないよう、できる限り金具などで固定しましょう。また、飛散防止フィルムを貼るなどガラスや食器などが飛び散らないための対策も必要です。特に、寝室の安全や複数の逃げ道を確認しておきましょう。生き残るための備えが大切です。

●日頃からの備え

外出時に常に身に付けておきたいもの、家庭や職場に常備しておきたいものなど、非常時への備えは、皆さんの家族構成や事情などで変わってきます。町のホームページに、非常持出品リストを掲載していますので、確認してみましょう。

●家族で防災会議

災害は家族がそろっている時に発生するとは限りません。安否の確認方法や避難所を確認するために、家族で防災会議をしましょう。安否の確認には、災害伝言ダイヤル 171、携帯電話の災害用伝言板サービスなどがあります。



町総合防災訓練、南越消防総合訓練を実施

10月11日(日)、町総合防災訓練と南越消防総合訓練を今庄総合事務所前駐車場で南越前町・南越消防組合の主催で行います。

午前8時30分頃、南越前町今庄を震源とする震度6強の地震が発生したと想定し、現実の災害に即した実践的な訓練を実施します。

町総合防災訓練では、今庄地区の10集落の町民の方が拠点避難所に避難し、初期消火訓練やバケツリレーを行い、併せて役場では災害対策本部立ち上げ演習や職員参集訓練を行います。また、南越消防総合訓練では、列車火災救助訓練、建物火災防御訓練、音楽隊ドリル演奏を行います。普段あまり見ることのできない訓練の様子など、ぜひ見学に来てください(今庄駅前駐車場を利用してください)。

※中止の際には、音声告知機で一斉告知します。

地震を知って地震に備えよう!

問合せ 総務課 ☎47-8000

地震は大きく2種類に分けられます。ひとつは、海と陸のプレート(岩盤)の境界で起こる「海溝型地震」で、津波を伴う場合があります。もうひとつは、陸のプレートの弱い部分で急激なずれが起こる「活断層による地震」です。

いつ、どこで、どの程度の地震が起こるかを正確に予知することは、今の段階では困難です。しかし、30年以内や50年以内など、一定の期間内に大きな地震が起こる可能性を予測できるようになりました。現在、東南海・南海地震や宮城県沖地震など7つの海域と105の活断層帯において、地震が発生した場合にどの程度の地震が起こるのかということと、その発生確率を内閣府が公表しています。



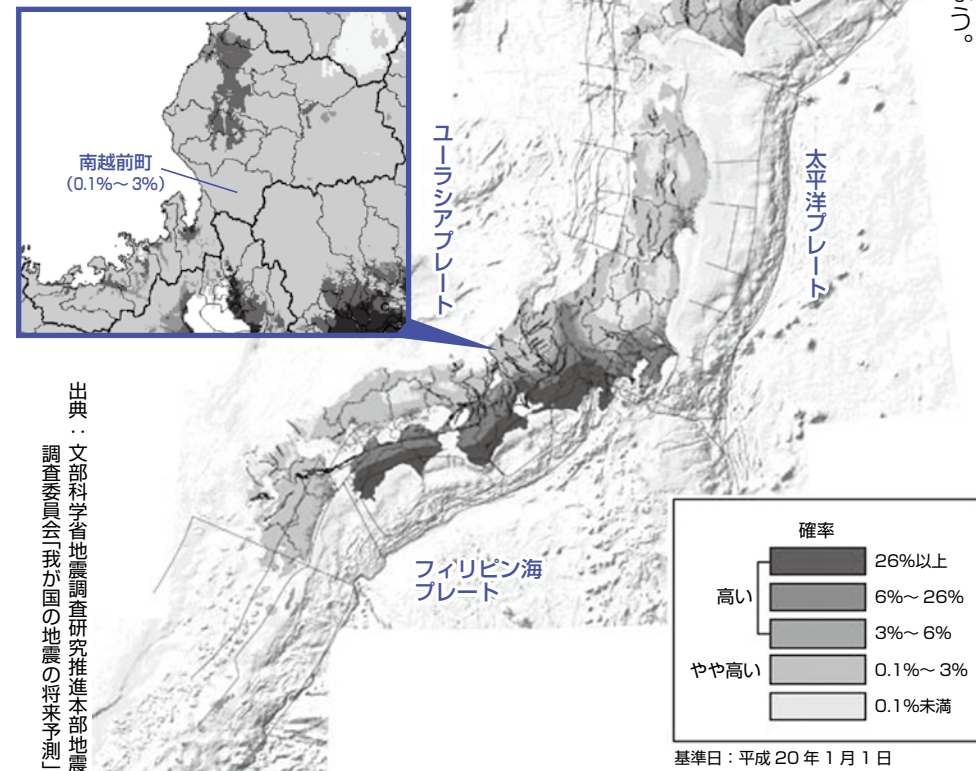
平成 17 年 8 月 16 日に発生した宮城県沖を震源とする地震。天井のパネルが落下したプール。



平成 19 年 7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震。倒壊した家屋。

全国を概観した地震動予測地図

今後 30 年以内に震度 6 以上の揺れに見舞われる確率を示した地図



実際に地震が起きた時、日本のどの地域が強い揺れに見舞われるのでしょうか。その可能性も確率として求められています。それを日本地図に色分けして示したものが、左図の「全国を概観した地震動予測地図」。ハザードマップのようなもので、土地の利用計画や防災への意識を高めるための資料など、さまざまな利用方法が考えられています。この地震動予測地図によると、福井県はほとんどの地域で、今後30年以内に震度6以上の揺れに見舞われる確率は0.1%～3%とされています。確率としては低い数字かもしれませんが、地震は避けられない自然災害。たとえ確率が低くても「地震は身近な危険」としてとらえ、一人ひとりの防災に対する意識を高めましょう。